

住宅改修が必要な理由書
＜基本情報＞

(P1)

記入例

利用者	被保険者 記号	〇〇〇〇〇〇	年齢	80 歳	生年月日	明治 大正 昭和	介護支援専門員以外に作成できる資格は次の通りです。 ①福祉住環境コーディネーター（２級以上） ②作業療法士 ③理学療法士	〇年〇月〇日	作成日	令和〇年〇月〇日
	被保険者 氏名	上越 花子	要介護認定 (該当に○)	要支援	1・2	1・2・3・4・5		〇〇事業所		
	住所	上越市木田 1－1－3						福祉住環境コーディネーター 2 級		
作成者	資格	(作成者本人が介護支援専門員でないとき)					氏名	〇〇 〇〇		
	連絡先						連絡先	〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇〇		
	担当介護支援専門員(作成者が介護支援専門員でないとき)						所属事務所	〇〇居宅介護支援事業所		
保険者	確認日	令和 年 月 日	評価欄	理由書の作成者が担当介護支援専門員以外の場合は、担当介護支援専門員が理由書及び添付書類を確認の上、提出してください。				氏名	〇〇 〇〇	
	氏名							氏名		

＜総合的状況＞

利用者の身体状況	右大腿骨頸部骨折により人工骨頭置換術術後。 令和5年12月に廊下で転倒し入院。人工骨頭置換術後、12月30日に退院。 室内は杖でゆっくりではあるが歩行可能。ただし見守りが必要。屋外は車いすを使用。	福祉用具の利用状況と 住宅改修後の想定		改修前	改修後
	たとえば、移動や立ち上がり、姿勢保持といった生活動作に関する身体状況なのかを記述する。屋内及び屋外で	●車いす	☒	☒	
介護状況	骨折前より長男夫婦と同居しており、排泄と入浴の介助については主に長男の妻が行っている。 日中は、本人しかいない場合もある。	●特殊寝台	☒	☒	
	家族の状況、主な介護者を含む介護状況を記述する。	●床ずれ防止用具	☐	☐	
住宅改修により、 利用者等は日常生活をどう変えたいか	長男の妻の介助と見守りにより何とか生活できているが、生活動作や家事（調理）なども含め、自分でできることはしていきたい。 できることは自分で行っていききたいとの思いを支援していく。 家屋が古く段差が多いために、住宅改修を行い、安全に生活できるようにしていく。 玄関にはすでに手すりと踏み台があり、一人で上がりかまちの昇降ができるので、今回は排泄と入浴動作及び、調理動作について改善したい。できればお風呂には毎日入りたい。	●体位変換機	☐	☐	
		●手すり	☐	☐	
		●スロープ	☐	☐	
		●歩行器	☐	☐	
		●歩行補助つえ	☐	☐	
		●認知症老人徘徊感知機器	☐	☐	
		●移動用リフト	☐	☐	
		●腰掛便座	☐	☐	
		●特殊尿器	☐	☐	
		●入浴補助用具	☒	☒	
●簡易浴槽	☐	☐			
●その他					
・	☐	☐			
・	☐	☐			
・	☐	☐			

住宅改修が必要な理由書

(P2)

<P1の「総合的状況」を踏まえて、①改善をしようとしている生活動作②具体的な困難な状況③改修目的と改修の方針④改修項目を具体的に記入してください。>

記入例

活動	①改善をしようとしている生活動作	②①の具体的な困難な状況(・・なので・・で困っている)を記入してください	③改修目的・期待効果をチェックした上で、改修の方針(・・することで・・が改善できる)を記入してください	④改修項目(改修箇所)
排泄	☒ トイレまでの移動 ☐ トイレ出入口の出入 (扉の開閉を含む) ☒ 便器からの立ち座り(移乗を含む) ☐ 衣服の着脱 ☐ 排泄時の姿勢保持 ☐ 後始末 ☐ その他()	居室からトイレの移動は、杖歩行だが杖を立てかける適切な場所がなく、また、歩行バランスも若干不安定で「見守り」が必要。 便座からの立ち上がりの際に、支持するところがないため、介助が必要。	☒ できなかったことをできるようにする ☒ 転倒等の防止、安全の確保 ☐ 動作の容易性の確保 ☒ 利用者の精神的負担や不安の軽減 ☒ 介護者の負担の軽減 ☐ その他()	☒ 手すりの取り付け (廊下の移動経路) (便器横壁面) (脱衣室) (浴室内の移動経路) () ☒ 段差の解消 (廊下3cmかさ上げ) (浴槽をエプロン高40cm、深さ50cmのものに取り替え) () ☐ 引き戸等への扉の取替え () () ☐ 便器の取替え () () ☐ 滑り防止等のための床材の変更 () () ☐ その他 () () ()
入浴	☒ 浴室までの移動 ☐ 衣服の着脱 ☐ 浴室出入口の出入 (扉の開閉を含む) ☒ 浴室内での移動(立ち座りを含む) ☐ 洗い場での姿勢保持 (洗体・洗髪を含む) ☒ 浴槽の出入(立ち座りを含む) ☐ 浴槽内での姿勢保持 ☐ その他()	居室から浴室への移動は「排泄」と同じ。 浴室内では杖は使えず、つかまる場所がないため、移動に不安がある。 浴槽の50cmの縁高を一人でまたぐことができず、介助を必要としている。	☒ できなかったことをできるようにする ☒ 転倒等の防止、安全の確保 ☐ 動作の容易性の確保 ☐ 利用者の精神的負担や不安の軽減 ☒ 介護者の負担の軽減 ☐ その他()	居室から浴室の動線は「排泄」と同じ。 浴室内での移動の安全を確保するために、移動経路に手すりを設置。 浴槽を浅いものに取替え、バスボードを併用して一人で浴槽への出入りができるようにする(ただし「見守り」は必要か)。
外出	☐ 出入口の出入 ☐ 上がりの移動 ☐ 車いすの移動 ☐ 履物の着脱 ☐ 出入口の出入 ☐ 出入口の出入 ☐ その他()	生活動作で困っていること、問題点について、その状況や介護の現状を具体的に記述する。 ・改修案の検討の際はすべての行為についてチェックが必要だが、理由書では改善しようとする行為に限定したコメントでよい。 ・生活のどの場面、どの動作が利用者・介助者にとって大変なのか、動作の流れに沿って一つずつ見極めること。寝たきり寝たきりならば「座位が保てるか」、歩行ができれば「段差を越えられる」	☐ できなかったことをできるようにする ☐ 転倒等の防止、安全の確保 ☐ 動作の容易性の確保 ☐ 利用者の精神的負担や不安の軽減 ☐ 介護者の負担の軽減 ☐ その他()	各行為の困難事項を改善するために、どのような改修を行うのか、その方針を記述する。
その他の活動	☒ 調理 ☒ 台所での移動、姿勢保持	杖でなんとか台所へは行けるが、調理は杖なしで長時間立位作業をしなければならず、現状では困難。	☐ できなかったことをできるようにする ☒ 転倒等の防止、安全の確保 ☒ 動作の容易性の確保 ☐ 利用者の精神的負担や不安の軽減 ☐ 介護者の負担の軽減 ☐ その他()	杖なしで長時間の作業が可能となるように、車いす作業を可能とするため、廊下と台所との床の段差を解消する。